

様式1

平成24年度 学校評価表

a ミッション		志を持ち未来を拓く子どもの育成		aビジョン ○基礎・基本を大切に、確かな学力を育む学校 ○学び力と遊ぶ力、これらの基本となる力を育む学校 ○尾道の魅力と郷土愛を高める学校 ○地域と保護者が育て支える学校										尾道市立土堂小学校		
評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月		1月		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値	g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上	国語科・算数科の学力の定着	モジュール授業を含めた国語科・算数科授業の充実	全国学力・学習状況調査と基礎・基本定着状況調査の通過率	平均通過率より+8以上	+9.8			123	A	全国国・算B問題は13ポイント以上で十分達成。基礎国・算、全国国Aは8～9で達成。全国算Aが5.6ということで課題である。	3			○コミュニケーション能力に長けた児童が増えてきたと感じる。 ○自分のノートに書く習慣が重要である。 ○昨年度までに対して、通過率の低下が気になるので、基礎学力の定着、通過率60%未満の児童に対する指導方法の工夫改善を一層お願いしたい。	○友達の考えのよさに気付かせたり、関わりを深めたりするために、発問と問い返しを工夫する。 ○授業のねらいを達成するために効果的な場面で書く活動を取り入れる。 ○基礎学力の定着を図るために、問題文を正しく読み取らせるための手立てを行う。 ○プレテストの実施により、児童の課題を的確に把握し、課題克服のための具体的な対応を行う。	
	コミュニケーション能力の育成	単元のねらいにそった言語活動の場の設定	児童の観察やノートの記述等が変容した児童の割合	85	75			88	B	課題にそった自分の考えをもつことができる児童が増えた。友達の考えのよさに気付かせ、関わりを深めさせる指導の工夫が必要である。	3					
	指導方法の工夫改善による教師の授業力の向上	研究授業の実施と研究協議の充実	授業評価票の評定（4段階評価）の平均値	3	3.2			106	A	学習のねらいに迫るための活動やコミュニケーションの場の設定の工夫はできた。思考の深まりを意識した展開を工夫する必要がある。	3					
豊かな心の育成	マナーの定着と奉仕の精神の涵養	気持ちのよい挨拶の励行	習慣化できた児童の割合（児童アンケート）	85	82			97	B	あいさつを全員が返すことはできているが、気持ちのよいあいさつをすることのできる児童には個人差がある。	3			○児童の心情変化をアンケートだけに頼るのは不十分である。 ○児童のマナーについては、学校外（地域の方々など）の評価があるとわかりやすい。 ○挨拶については、保護者の責任も含め気になるので、連携した指導をお願いしたい。 ○読書の質的な高まりを見取って欲しい。 ○読書活動は、国語力の基礎・基本なので、引き続き達成率が上がるよう、指導をお願いしたい。 ○育友会とも連携して本の補充やブックトラックの充実に努めて欲しい。	○道徳の授業後のワークシートの記述から児童の心情の変化を見取り、授業改善に生かす。 ○教師がいない場、学校外での場に於いて道徳の実践力が発揮されるよう意識付けを行う。 ○始業前に読書朝会を定期的に位置づけ、読書時間の確保を図る。	
		主体的な清掃活動の実施	習慣化できた児童の割合（児童アンケート）	85	75			85	B	4月から無言掃除をすることができ児童の割合は増加している。美化朝会や風の掃除時間に継続して指導する。	3					
	道徳の時間の充実	心に響く道徳授業の創造	児童の心情変化（児童アンケート4段階）	3.5	3.5			99	B	毎月ほぼ目標を達成することができた。今後も自己のふりかえりを促す授業を展開していきたい。	3					
		校内掲示（心のコーナー）の充実	月1回以上の更新	11	100			100	A	担当者の声かけにより計画的に掲示の更新をすることができた。	3					
読書活動の充実	「読書貯金」の実施	学年ごとの目標達成の割合	85	76			73	C	4月の46.1%から7月の76.0%と次第に増加しているが、目標値は達成できていない。	1	1	1				
健やかな体の育成	児童の体力・運動能力の向上	体育科授業の充実	新体力テストの県平均を上回った種目の割合	65										○「早寝・早起き・朝ごはん」の有益性を引き続き、児童・保護者・学校で共有していくようにして欲しい。	○「早寝・早起き・朝ごはん」の実態調査の分析をし、改善計画を立てる。また、分析結果については、学級懇談会で保護者に伝えて共有し、課題について話し合い、改善に向けて取組をすすめる。	
	基本的生活習慣の確立	「早寝早起き朝ごはん」の徹底	習慣化できた児童の割合（児童の自己評価）	90	81			90	B	就寝時刻に課題がある。担任による個別指導・学級懇談会での保護者への啓発を通して徹底を図る。	3					
信頼される学校	学校情報の積極的な発信	ホームページによる学校の取組みの発信	年間のHPの更新回数	250	117			47	A	学校の情報を積極的に発信し、更新回数が伸びている。	3			○地域の人との気軽な交流を進めると良い。 ○保護者の満足度は、次年度の新入生の応募にもかかわってくるので、魅力ある学校づくりに尽力して欲しい。 ○魅力あるコミュニティースクールとして、実践の取組をお願いしたい。 ○保護者の満足度やニーズをより詳しく把握するため、学校運営協議会からの保護者向けアンケートを2学期にも実施して3学期と比較し、成果や課題を明らかにするとよい。	○2学期には、1学期以上に地域人材・素材の活用が計画されているので、効果的に学習ができるよう場の設定を工夫する。 ○2学期中に学校運営協議会から提示されたアンケートをとり、3学期と比較して保護者のニーズや期待を把握し取組に活用する。	
	コミュニティースクールの実践を進化させる。	地域人材・素材の計画的な教育課程への位置づけ	年間計画の実施率	100	106			106	A	年間計画以上の時数の授業を行っている。	3					
	保護者の満足度の向上	保護者アンケートの実施	保護者評価4段階3以上の割合（保護者アンケート）	90	100			111	A	肯定的な評価をいただくことができた。	2	1				

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。